

3 運営委員会長賞

	部門及び区分	氏名・組織名等	市町	経営規模等		地区
1	施設野菜部門 (トップファーマー)	マルナンファーム株式会社 ^{かぶしきがいしゃ}	南島原市	トマト ミニトマト オクラ	84a 84a 50a	島原
2	果樹部門 (トップファーマー)	吉原 靖雄 ^{よしはら やすお}	松浦市	ハウスぶどう キャベツ	66a 30a	県北
3	畜産部門 (トップファーマー)	有限会社 塚ちゃん雲仙たまご村 ^{ゆうげんがいしゃ つか ounzen tamago mura}	島原市	採卵鶏	20,000羽	島原
4	畜産部門 (トップファーマー)	株式会社 上野養豚 ^{かぶしきがいしゃ うえのようどん}	大村市	母豚	140頭	県央
5	農産部門 (トップファーマー)	上島 喜一郎・初子 ^{じょうじま きいちろう はつこ}	諫早市	水稻 作業受託	12.5ha 25ha	県央
6	しまの農林業経営部門 (トップファーマー)	合同会社 タカセファーム ^{こうどうがいしゃ}	壱岐市	葉たばこ その他(大麦・水稻等)	430a 1,210a	壱岐
7	産地集団部門 (いきいきファーム)	長崎西彼農業協同組合 ^{ながさきせいひのうぎようきようどうくみあい} 大西海びわ部会 ^{だいさいかい びわかい}	西海市	びわ	6.77ha	県央
8	産地集団部門 (いきいきファーム)	平戸市小麦生産組合 ^{ひらんどしこむぎせいさんくみあい}	平戸市	小麦	18.8ha	県北
9	集落営農・地域営農部門 (げんきビレッジ)	Bunkou Farms島原合同会社 ^{しまばらこうどうがいしゃ}	島原市	構成員数 設立年	13人 令和5年	島原

4 特別賞

	部門及び区分	氏名・組織名等	市町	取組内容	地区
1	特別部門	田中 一成 ^{たなか かずなり}	東京都	・未利用資源を含む長崎県産農林水産物に関する研究を行い、特有の機能性を明らかにし、県産農産物を使った付加価値を高めた加工品の商品化に貢献。 ・長崎県ブランド農産加工品「長崎四季畑」認証制度の創設当初より運営委員長や審査委員長として多くの助言や提言をいただくなど、本県農産加工品の振興に貢献。	—
2	特別部門	株式会社 フジシタ ^{かぶしきがいしゃ}	雲仙市	・ばれいしょ産地における担い手の減少並びに植付や収穫作業時の雇用確保の課題に対して各種機械を開発し、省力化・低コスト化や1戸当たりの経営面積の拡大の実現等に貢献。 ・農家のニーズに対応した機械の改良や地域の青年農業者組織の育成、農林技術開発センター等との連携に取り組むなど地域農業の振興に貢献。	島原

運営委員会長賞 受賞部門:施設野菜部門(トップファーマー)

法人名

マルナンファーム株式会社

代表者名 代表取締役 なかむら だいすけ 中村 大介

市町名 南島原市

所属団体 農事組合法人 ながさき南部生産組合



1 経営の概要

	主品目(施設野菜)	その他(オクラ)	合 計
作付面積(頭羽数)	トマト 84a ミニトマト 84a	50a	218a
単収	トマト 10,540kg/10a ミニトマト 7,887kg/10a	2,067kg/10a	—
生産量(販売量)	トマト 88.5t ミニトマト 66.3t	10.3t	165.1t
労働時間 (うち雇用時間)	—	—	25,200 時間 (20,400 時間)
役員数	2人		
安全・安心と環境に調和した農業の取組	みどり認定、農薬使用低減の取組(防虫ネット、天敵利用)、生協版 GAP 実践、生産履歴記帳		

2 受賞の理由(特徴的な取組)

- (1) 家族のほかに正社員 3 名、外国人研修生 9 名で、トマト・ミニトマト 168a、オクラ 50a を栽培する大規模経営体である。
- (2) 長崎型低コスト統合環境制御装置を導入し、組合の部会で農業のデジタル化とデータ活用のサービス事業体との勉強会を企画・実施するなど地域の農業振興に貢献している。出荷先である生協の GAP に取り組み、特別栽培レベルの減農薬・減化学肥料栽培を実践している。
- (3) ながさき南部生産組合代表理事を務め、令和 6 年度の販金額は組合において 1 位となるなど組合の中心的存在として地域農業をけん引している。



勉強会の様子とそのメンバー

運営委員長賞

受賞部門:果樹部門(トップファーマー)

氏名

よしはら やすお
吉原 靖雄

市町名 松浦市

所属団体 ながさき西海農業協同組合御厨ぶどう部会



1 経営の概要

	主品目(ハウスぶどう)	その他(キャベツ)	合 計
作付面積(頭羽数)	66a	30a	96a
単収	1,040kg/10a	—	—
生産量(販売量)	6.9t	9.2t	—
労働時間 (うち雇用時間)	3,000 時間 (290 時間)	330 時間 (0 時間)	3,330 時間 (290 時間)
家族従事者数	2人		
安全・安心と環境に調和した農業の取組	農薬使用低減の取組(防虫ネット)、生産履歴記帳、 資源循環の取組(地域内資源の利用)		

2 受賞の理由(特徴的な取組)

- (1) 全園でぶどうの施設栽培を行い、加温、省加温、無加温の栽培体系を組み合わせることで、省エネ、低コスト、単収向上、高品質生産を実践し、県トップレベルの単収 1,041kg/10a(県施設平均 882kg/10a)を誇る。
- (2) 消費者ニーズに対応したぶどうの無核化栽培や、「シャインマスカット」の導入により、高単価で販売するとともに、部会への作付けを推進し、産地化をけん引している。
- (3) JA ながさき西海御厨ぶどう部会長として、松浦市とのポスター作製、ゆうパック小包やふるさと納税返礼品、消費者向け即売会等に取り組み、「御厨ぶどう」ブランドを PR している。また、農業士として地域農業者との連携や北松農高生の就農促進研修を受け入れるなど地域農業に貢献している。



ぶどうの摘粒作業

運営委員長賞

受賞部門：畜産部門（トップファーマー）

法人名

ゆうげんがいしゃ つか 塚ちゃん ぶんせん たまごむら
有限会社 塚ちゃん雲仙たまご村

代表者名 代表取締役 つかはら えいしろう 塚原 栄志郎

市町名 島原市

所属団体 島原市養鶏協会
島原第一養鶏組合



1 経営の概要

	主品目（採卵鶏）	その他	合 計
作付面積（頭羽数）	20,000 羽	—	20,000 羽
単収	—	—	—
生産量（販売量）	360t	—	360t
労働時間 （うち雇用時間）	28,385 時間 （22,193 時間）	—	28,385 時間 （22,193 時間）
役員数	2人	労働条件の整備	就業規則に関する規定有
安全・安心と環境に調和した農業の取組	エコフィードの利活用、堆肥の供給、抗生剤の使用低減、生産履歴記帳、資源循環の取組（3者間連携）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- （1） 常時 20,000 羽を飼養する採卵鶏経営で、卵の生産のみならず、卵や鶏肉の加工販売をするなど経営の多角化・6 次産業化を展開している。
- （2） 風土に適した種鶏の選択、エコフィードを利用した飼料の改良、地域の名水利用により、生産物の品質向上に取り組むとともに、卵を加工したデザートや鶏肉加工品製造により付加価値を高め、高い収益を確保している。また、直売所とともに早い段階からオンライン販売に 24 年間取り組み、年間約 17,000 件まで販路を開拓している。
- （3） 地域認定農業者協議会の役員や農業士を務め、中学生職場体験や大学研修生の受入など地域農業の発展、担い手育成に貢献している。



直売所外観



洗卵作業の様子

運営委員長賞

受賞部門：畜産部門（トップファーマー）

法人名

かぶしきがいしゃ うえのようどん
株式会社 上野養豚

代表者名 代表取締役 上野 活樹

市町名 大村市

所属団体 長崎県養豚協会



1 経営の概要

	主品目（養豚）	その他	合 計
作付面積（頭羽数）	母豚 140 頭規模	—	母豚 140 頭規模
単収 （肉豚出荷頭数）	23 頭/母豚 1 頭	—	23 頭/母豚 1 頭
生産量（販売量）	3,184 頭	—	3,184 頭
労働時間 （うち雇用時間）	16,440 時間 (7,904 時間)	—	16,440 時間 (7,904 時間)
役員数	4人		
安全・安心と環境に調和した農業の取組	エコフィードの利活用、資源循環の取組（堆肥の供給）、抗生剤等の使用低減		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- 母豚 140 頭の一貫経営を行っている養豚経営体であり、エコフィードや飼料用米を利用した自家配合飼料の生産や豚ふん尿から生産された良質堆肥を地域内に供給し、環境に調和した養豚経営に取り組んでいる。
- 生産された豚肉を「山のウエノ豚」として自社ホームページでオンライン販売するほか、地元産食材とのコラボ商品開発や地域飲食店との連携など、新しい養豚業の形を展開している。
- 「まるごとん」の商品名で 1 頭をまるごと販売し、部位ごとの特徴や調理レシピを公開することで、消費拡大のみならず食育やフードロス削減意識の向上を図っている。
- 大村市認定農業者協議会、県養豚協会などの農業者組織の要職を務め、次世代を担う若手後継者の育成・指導に尽力している。



母豚の飼料摂取量やボディコンディション等をチェック

運営委員会長賞 受賞部門：農産部門（トップファーマー）

氏名

じょうじま きいちろう
上島 喜一郎

じょうじま はつこ
上島 初子

市町名 諫早市

所属団体 農事組合法人わたつみ

川内町集落営農組合

小野種子生産組合



上島 喜一郎

上島 初子

1 経営の概要

	主品目（水稻）	その他（作業受託）	合 計
作付面積（頭羽数）	12.5ha	麦類（全作業受託）19ha 大豆（従事分量配当）、 水稻（耕起・代掻き）6ha	—
単収	480kg/10a	—	—
生産量（販売量）	36t	—	—
労働時間 （うち雇用時間）	—	—	3,000 時間 （824 時間）
家族従事者数	2人		
安全・安心と環境に調和した農業の取組	化学肥料低減の取組（側条施肥、育苗箱全量施肥）、生産履歴記帳、資源循環の取組（地域内資源の供給）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

(1) 諫早市平坦地水田地帯で水稻栽培のほか麦類や大豆、水稻作業の受託を行っている。

(2) 水稻移植栽培の大半で育苗箱全量施肥に取り組み、労力分散による規模拡大を実現しているほか、地域に先駆け、乾田直播栽培へ取り組み、省力化・低コスト栽培を実践している。

水稻では品質向上を図るため、高温に強い「にこまる」を中心に作付けするほか、業務用米「恋初めし」の試験栽培に取り組み、現在、契約栽培を実施している。

(3) 担い手不足が進む中、リタイアする農業者の農地を積極的に借り受け、規模拡大しながら地域の農地保全に貢献するとともに、地域集落営農組合の立ち上げ、法人化においては、集落の合意形成から尽力し、現在は農事組合法人の理事として地域の農業の維持発展に貢献している。



稲の雑穂抜き

運営委員長賞 受賞部門:しまの農林業経営部門(トップファーマー)

法人名

ごうどうがいしゃ
合同会社 タカセファーム

代表者名 代表社員 たか せ あきひろ
高瀬 昭浩

市町名 壱岐市

所属団体 たばこ耕作組合壱岐総代区



1 経営の概要

	主品目(葉たばこ)	その他(大麦・WCS・ばれいしょ・水稻)	合 計
作付面積(頭羽数)	430a	1,210a	1,640a
単収	320kg/10a	—	—
生産量(販売量)	13.8t	—	—
労働時間 (うち雇用時間)	5,400 時間 (3,900 時間)	1,800 時間 (1,300 時間)	7,200 時間 (5,200 時間)
役員数	1 人		
安全・安心と環境に調和した農業の取組	特別栽培、生産履歴記帳、資源循環の取組(3者間連携)		

2 受賞の理由(特徴的な取組)

- (1) 離島の葉たばこ、土地利用型作物の複合経営を行う法人であり、規模拡大のために農地を有効活用し、葉たばこ等の高単収、高品質栽培を実践している。
- (2) 壱岐地域でブランド化を進めているばれいしょ「壱岐黄金®」の生産にも取り組み、水田における他品目とのローテーション栽培、適正 pH 管理により、病害の発生抑制、単収の向上を両立している。
- (3) 高齢化、後継者不在で作付けが困難な農業者等から農地を借り受け、農地集積をするなど地域の農地保全に貢献するとともに、農地利用最適化推進委員、認定農業者協議会役員、たばこ耕作組合壱岐総代等を務めるなど地域農業へ貢献している。



葉たばこ出荷準備作業の様子

運営委員長賞 受賞部門:産地集団部門(いきいきファーム)

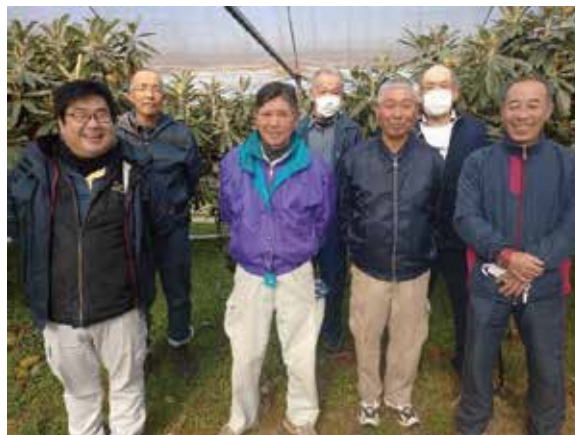
ながさきせいひのうぎょうきょうどうくみあい
長崎西彼農業協同組合

だいさいかい ぶかい
大西海びわ部会

代表者名 部会長 井手 孝博

市町名 西海市

発足・設立年 昭和 47 年



1 組織の概要

品目	びわ	構成員数 (認定農業者数)	26 人 (7人)	産地規模	6.77ha
販売量	施設 12,920kg 露地 16,516kg	販売額	施設 25,025 千円 露地 23,159 千円		
単収	施設 807.5kg/10a 露地 330.3kg/10a	単価	施設 1,937 円/kg 露地 1,402 円/kg		

2 受賞の理由(特徴的な取組)

- (1) 部会員数 26 人、1 人あたりの平均作付規模は約 26aで、「長崎早生」を主体に他品種との組み合わせや施設栽培導入により労力分散を実現し、設立当初より共同選果体制を継続し、40 年以上続く生産組織である。
- (2) 共同選果による統一された品質基準に基づくびわの出荷を実現することで、市場関係者や消費者から高い信頼を獲得している。
- (3) 栽培においては、低樹高化により摘果や袋掛け、収穫などの作業負担軽減、綿密な誘引作業で安定した収量確保を実現し、単収、販売量・額、単価ともに 5 年前より増加している。
- (4) 新規就農者に対しては、縮小する農家の既存園地を斡旋することで、未収穫期間を発生させず、スムーズな就農につなげている。さらに、地域外からの新規参入者には住居の確保支援を行うなど支援体制を築いている。



びわ共同選果状況

運営委員会長賞 受賞部門:産地集団部門(いきいきファーム)

ひらどしこむぎせいさんくみあい 平戸市小麦生産組合

代表者名 組合長 ふるかわ あきひろ 古川 明宏

市町名 平戸市

発足・設立年 平成 29 年



1 組織の概要

品目	小麦	構成員数 (認定農業者数)	15 人 (3人)	産地規模 (令和7年)	18.8ha
販売量	47,692kg	販売額	9,306 千円		
単収	323kg/10a	単価	195 円/kg		

※単価は補助金込み金額

2 受賞の理由(特徴的な取組)

- (1) 部会員数 15 人、1 人あたりの平均作付規模は 125.3aで、ちゃんぽん麺用小麦である「長崎 W2 号」の生産に取り組む生産組織である。
- (2) 平成 29 年に 1ha から始まり、令和 6 年には 27.7ha まで飛躍的に面積を拡大させている。近年はちゃんぽん麺用小麦である「長崎 W2号」の生産に特化し、令和6年産の組合の生産量は県全体の約 1/4 を占めるまでに増加している。
- (3) 地域の畜産農家の完熟堆肥等を活用し環境負荷低減に取り組むとともに、水田裏作として栽培することで一年を通した圃場管理が可能となり、鳥獣害被害の軽減にも寄与している。



ドローン防除実演会の様子



現地検討会の様子

運営委員長賞 受賞部門:集落営農・地域営農部門(げんきビレッジ)

ぶん こう ふあーむずしまばらごうどうがいしゃ
Bunkou Farms 島原合同会社

代表者名 代表 伊達 孝誠

市町名 島原市

発足・設立年 令和5年



1 組織の概要

構成員数 (認定農業者数)	13人 (12人)	経営面積	キャベツ 405a スイートコーン 145a はくさい 63a
------------------	--------------	------	---------------------------------------

2 受賞の理由(特徴的な取組)

- (1) 島原市三会地区で27歳から47歳の野菜農家13戸で構成される出荷組織(平均年齢30代後半)であり、令和2年の夏、コロナ禍の中で「農業にもっと柔軟な働き方や新しいやり方が必要なんじゃないか」との思いで「新しい農業のかたち」を作ろうと組織され、キャベツを中心にスイートコーン、はくさいを生産から販売まで行っている。
- (2) 令和5年に法人化し、播種機、定植機、収穫機、トンネル支柱打込機、フォークリフトの導入など機械化を進め、法人として倉庫を所有するなど効率的な農業生産を行い、基盤整備後の営農を確立した模範的な組織として、地域をけん引している。
- (3) ひまわりを核とした「映えスポット」づくりのしかけや、児童や取引先との収穫体験の実施など、交流人口の増加を図り、それらの活動や日々の農作業をSNS等で地域農業の魅力を発信している。



キャベツの機械定植作業



児童とのひまわり収穫体験(しまばらんも応援)

特別賞 受賞部門:特別部門

たなか かずなり
田中 一成

市町名 東京都

主な役職 県立長崎シーボルト大学(現長崎県立大学)看護
栄養学部教授(平成11年~令和7年3月)
長崎県立大学名誉教授(令和2年~)
長崎ブランド農産加工品「長崎四季畑」認証制度
審査委員長(平成24年~令和6年)



1 受賞の理由

- (1) 未利用資源を含む長崎県産農林水産物に関する研究を行い、特有の機能性を明らかにし、県産農産物を使った付加価値を高めた加工品の商品化に貢献。
- (2) 長崎県ブランド農産加工品「長崎四季畑」認証制度の創設当初より運営委員長や審査委員長として多くの助言や提言をいただくなど、本県農産加工品の振興に貢献。

2 活動の特徴・成果

- ・ 県、長崎大学等とのビワ混合発酵茶、ツバキ混合発酵茶、ミカン混合発酵茶の各種機能性の探索等に関する連携プロジェクトの実施
平成17年~平成28年 ビワ混合発酵茶
平成20年~平成29年 ツバキ混合発酵茶
平成24年~令和5年 ミカン混合発酵茶
- ・ 長崎県産農林水産物の機能性の研究により、機能性表示食品であるビワ混合発酵茶およびミカン混合発酵茶の商品化に貢献。
- ・ 長崎県ブランド農産加工品「長崎四季畑」認証制度の創設当初より運営委員長や審査委員長として尽力いただいたことにより、県民に愛され、全国に誇れる農産加工品の認知度及び販売額の向上に貢献。

<長崎四季畑認知度>

平成27年:28% → 令和6年:37% (9%向上)

<長崎四季畑販売金額>

平成25年29百万円 → 令和6年:1,326百万円 (+1,297百万円)



ビワ混合発酵茶

3 今後の展望

- ・ 長崎県立大学を退官後も引き続き長崎県立大学名誉教授として、企業に対し、健康機能性を有する製品の開発支援を実施している。機能性に関する最前線の知見をもとに、引き続き県の産業振興への貢献が期待される。

特別賞 受賞部門:特別部門

かぶしきがいしゃ
株式会社 フジシタ

代表者名 代表取締役 ^{ふじした} 藤下 ^{じついち} 實一

市町名 雲仙市

設立年 平成 23 年



1 組織の概要

構成員数	7名(代表取締役社長1名、役員3名、従業員3名)
活動の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「省力化」をテーマに、本県の基幹作物であるばれいしょの植付同時局所施肥装置や乗用型ばれいしょ種芋植付機・乗用型ばれいしょ収穫機を開発・販売。 ・現場の要望・改善案に即応し改良するスピード感も特徴の一つとなっている。 ・長崎県農林技術開発センターや青年農業者組織「愛の町農友会」のプロジェクトとして開発機械の省力化の検証を行う等、県や地域、生産者との連携も密に行われている。
活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ばれいしょ植付同時局所施肥装置は生産者が所有植付機に取り付けることで植付と局所施肥の同時作業を実施でき、低コスト化(40%減肥)を実現。乗用型のばれいしょ種芋植付機と乗用型ばれいしょ収穫機については作業の効率化、省力化、規模拡大に貢献。 ・地域の青年農業者組織のプロジェクト活動に協力し、プロジェクトは全国大会にて農林水産省経営局長賞(全国 2 位)を受賞するなど、青年農業者の育成に貢献。県農林技術開発センターとの実証試験や振興局開催の実演会等への協力など県と連携した活動にも取り組み、地域農業の振興に貢献。

2 受賞の理由

- (1) ばれいしょ産地における担い手の減少並びに植付や収穫作業時の雇用確保の課題に対して各種機械を開発し、省力化・低コスト化や1戸当たりの経営面積の拡大の実現等に貢献。
- (2) 農家のニーズに対応した機械の改良や地域の青年農業者組織の育成、農林技術開発センター等との連携に取り組むなど地域農業の振興に貢献。



ばれいしょ植付機実演の様子

3 今後の展望

- ・令和7年度以降も県内ばれいしょ農家において当該機械の導入が予定されるとともに、農家の要望に合わせた機械の改良に取り組むなど、今後も長崎県の農業振興への貢献が期待される。



ばれいしょ植付機調整作業